

電線など機能線事業が

「産業用のゴム絶縁
要環境から。」

「まずは足元の需

古河電工産業電線（本社・東京都荒川区）は軽量・柔軟で電気工事の作業性を大幅に高めるアルミ電線の供給拡大に注力している。併せて銅電線でもユーザーのニーズをくみ取った新製品開発を加速し、製品構成を高付加価値化。収益力の強化を図っている。同社の経営戦略について松本康一郎社長に聞いた。

（古瀬 唯）

古河電工産業電線の経営戦略

松本 康一郎社長に聞く



アルミ電線の供給拡大

新製品投入「機能線事業」を強化

好調に推移している。アルミ電線の普及は電力会社向けのアルミ配電線で長年培ってきた圧倒的な技術力を武器に、機能線事業の製品をメインに新製品で毎年10億円分の売上高を確保しつつ、汎用線事業を中心にアルミ電線を中長期的に伸ばしたいと考えている。アルミ電線は施工性の高さで建築現場の人手不足に対応できるほか、重量の関係で建築の自由度が高まるなど、さまざまな利点がある。今後は軽量化の効果が出せる太い電線でアルミ導体品の供給を増やしている。7月からア

好調に推移している。アルミ電線の普及は電力会社向けのアルミ配電線で長年培ってきた圧倒的な技術力を武器に、機能線事業の製品をメインに新製品で毎年10億円分の売上高を確保しつつ、汎用線事業を中心にアルミ電線を中長期的に伸ばしたいと考えている。アルミ電線は施工性の高さで建築現場の人手不足に対応できるほか、重量の関係で建築の自由度が高まるなど、さまざまな利点がある。今後は軽量化の効果が出せる太い電線でアルミ導体品の供給を増やしている。7月からア

好調に推移している。アルミ電線の普及は電力会社向けのアルミ配電線で長年培ってきた圧倒的な技術力を武器に、機能線事業の製品をメインに新製品で毎年10億円分の売上高を確保しつつ、汎用線事業を中心にアルミ電線を中長期的に伸ばしたいと考えている。アルミ電線は施工性の高さで建築現場の人手不足に対応できるほか、重量の関係で建築の自由度が高まるなど、さまざまな利点がある。今後は軽量化の効果が出せる太い電線でアルミ導体品の供給を増やしている。7月からア

たHB（ハイブリッド）PRしながら、接続時ビルハーネスに力を入れる。アルミは銅と比べて軽く安価。加えて我々のアルミ電線は被覆材料や線の撚り方の工夫で柔軟性に優れている。すでにオフィスビルや工場、太陽光発電所などで敷設実績がある。高い施工性、高い施工性、益は前期比で45%増と

「中期的な戦略や収益目標についてはいかがですか。22年度には営業利益を前期実績比で6倍、売上高は3割強増の約400億円に高めたい。機能線事業の製品をメインに新製品で毎年10億円分の売上高を確保しつつ、汎用線事業を中心にアルミ電線を中長期的に伸ばしたいと考えている。アルミ電線は施工性の高さで建築現場の人手不足に対応できるほか、重量の関係で建築の自由度が高まるなど、さまざまな利点がある。今後は軽量化の効果が出せる太い電線でアルミ導体品の供給を増やしている。7月からア

「22年度には営業利益を前期実績比で6倍、売上高は3割強増の約400億円に高めたい。機能線事業の製品をメインに新製品で毎年10億円分の売上高を確保しつつ、汎用線事業を中心にアルミ電線を中長期的に伸ばしたいと考えている。アルミ電線は施工性の高さで建築現場の人手不足に対応できるほか、重量の関係で建築の自由度が高まるなど、さまざまな利点がある。今後は軽量化の効果が出せる太い電線でアルミ導体品の供給を増やしている。7月からア

「22年度には営業利益を前期実績比で6倍、売上高は3割強増の約400億円に高めたい。機能線事業の製品をメインに新製品で毎年10億円分の売上高を確保しつつ、汎用線事業を中心にアルミ電線を中長期的に伸ばしたいと考えている。アルミ電線は施工性の高さで建築現場の人手不足に対応できるほか、重量の関係で建築の自由度が高まるなど、さまざまな利点がある。今後は軽量化の効果が出せる太い電線でアルミ導体品の供給を増やしている。7月からア

